

令和元年度 全国高等学校総合体育大会（インターハイ） 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和元年度 全国高等学校総合体育大会(インターハイ)				
●日程	令和元年7月27日 (土) ~		令和元年7月29日 (月)		
●会場	薩摩川内市文化会館 サンアリーナせんだい いちき串木野市総合体育館 鹿児島市吉田文化体育センター				
●講師	宇田川 貴生氏 有澤 重行氏 福岡 敏徳氏 青木 俊博氏 久米 克弥氏 阿部 聖氏 北沢 あやこ氏 北島 寛臣氏 小田中 涼子氏				
●スケジュール	令和元年7月27日 (土) 会場:薩摩川内市文化会館第一会議室				
	13:00 受付 13:30 開講式 14:00 研修①「研修会テーマ設定の意図・大会運営に当たって」講師:有澤氏 福岡氏 15:00 休憩 15:10 研修②「3POメカニクス ~ベアシック~」講師:青木氏 北島氏 16:10 休憩 16:20 研修③「処置ミスゼロを目指して ~オフィシャルズの連携と役割~」講師:小田中氏 久米氏 17:20 開催県 高体連専門部長・専門委員長 歓迎の挨拶 17:30 夕食 18:10 研修④「インテグリティ」講師:宇田川氏 18:40 休憩 18:50 研修⑤「処置ミスゼロを目指して ~Official's Tools / IOT~」講師:阿部氏 北沢氏 19:50 諸連絡 20:20 閉講式				
	令和元年7月28日 (日) ~		令和元年7月29日 (月)		
	7月28日(日) 9:30 実技開始 7月29日(日) 10:00 実技開始 終了後、交通機関の時間により各自解散				
●担当試合	令和元年7月28日 (日) 11:10 ~ サンアリーナせんだい Cコート				
	対戦カード	土浦日大高校(茨城) VS		白樺学園高校(北海道)	
	CC	神丸 一祐氏(鹿児島) U1	堂國 和昭 U2	若山 輝紀氏(徳島)	
	講師/主任	山岸 大輔氏(埼玉)			
	講評	・判定しないといけないケース、特にエースシューターに対するプロテクトシューター等、3人できっちり判定できていた。 ・ファールの判定としては正しいが、プライマリとアングルを持っているレフェリーは誰かということをもっと意識してほしい。 ・クロックに関しては大きなトラブルはなかったが、EOQのクロック管理は誰がしているのかをもっと3人で明確にコミュニケーションをしてほしい。誰が管理しているのか不安に感じる部分があった(特に1Q)。			
	令和元年7月29日 (月) 10:00 ~ サンアリーナせんだい Dコート				
	対戦カード	精華女子高校(福岡) VS		県立葦崎高校(山梨)	
	CC	堂國 和昭 U1	佐原 佳世氏(静岡) U2	西 麻美氏(鹿児島)	
	講師/主任	神山 安奈氏(三重)			
	講評	・EOQの終わり方についてもっとコミュニケーションが必要であった。プザーピーターで2点なのか3点なのかの確認もあり、クロック管理をするべきレフェリー(今回はトレイルだった)がビジーであれば、センターレフェリーが得点の成立が先かクロックプザーが先か判定したほうが、スムーズに運営できた。 ・ショットクロックがリセットされない場面で、リセットされたことがあった。3人で確認する必要があった。 ・キープレーヤーに対する守り方(手の使い方、体の寄せ方)については、もう少し整理が必要な場面があった。			
	自己の感想	今回の研修会は、「処置ミスゼロの3POメカニクスの実践 ~ベアシックの確認と徹底、情報共有の重要性に着目して~」というテーマで行われた。初日の研修では感じたことは、3POのメカニクスの基本の確認・徹底や、ガイドラインに則した判定を積み重ねること、TOやクルー間のコミュニケーションを大切に各自が持っている情報をどんどん出しあって共有していくことが処置ミスゼロにつながっていくことが確認できた。また、インテグリティの意義や目的、レフェリーの目的についても確認していく中で、試合の質を高めるためにレフェリーも含めバスケットにかかわる全員の価値観を変えていく必要性も感じた。今回のインターハイでは、試合開始30分前にクルーとTOチームでミーティングを行ったり、CCが試合終了後に終了報告を行うなど、処置ミスゼロを目指す取組みが行われた。事前にTOチームとミーティングをすることでゆとりを持って試合に臨むことができた。 実技では、まだまだクルー間のコミュニケーションが不足する場面があり、特にクロック管理でいくつか改善点があった。他にもプライマリとアングルの確認、プレゼン、CCメンタリティーに関することなど、まだまだ改善していかなければならないことが多いが、全国のレフェリーを見て新たな刺激をもらうことができたので、今後の活動につなげていきたい。最後になりましたが、今回の派遣についてご配慮いただいた大阪府バスケットボール協会および審判委員会、また現地で審判活動に専念できるようさまざまなご配慮をいただいた鹿児島県協会および審判委員会の皆様に感謝申し上げます。			